



NAGOYA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL
OF MEDICINE

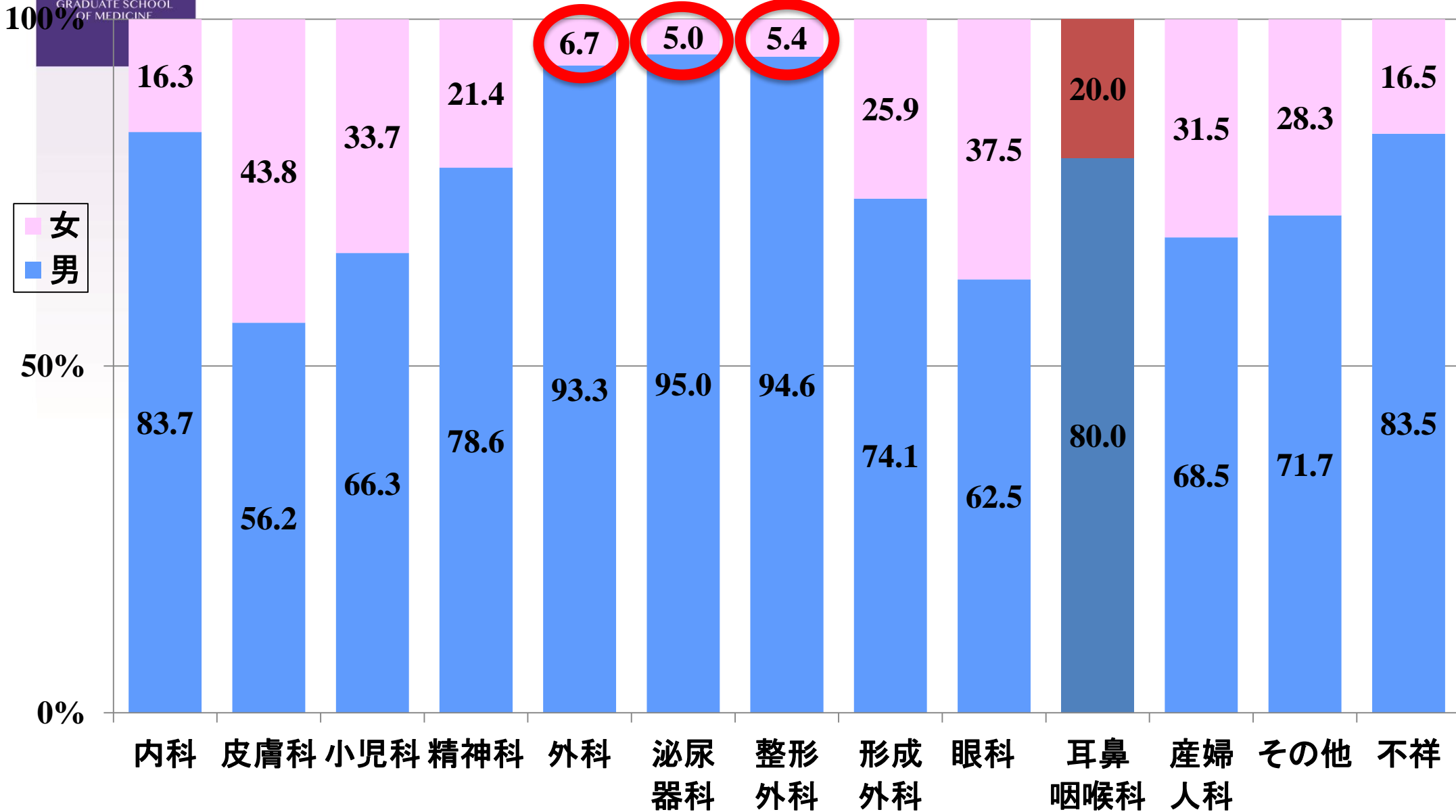
私の手術修練とキャリアパス ～頭頸部外科医として～

名古屋大学医学部耳鼻咽喉科
平松真理子 藤本保志
西尾直樹 曾根三千彦



NAGOYA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL
OF MEDICINE

診療科別男女別 医師割合

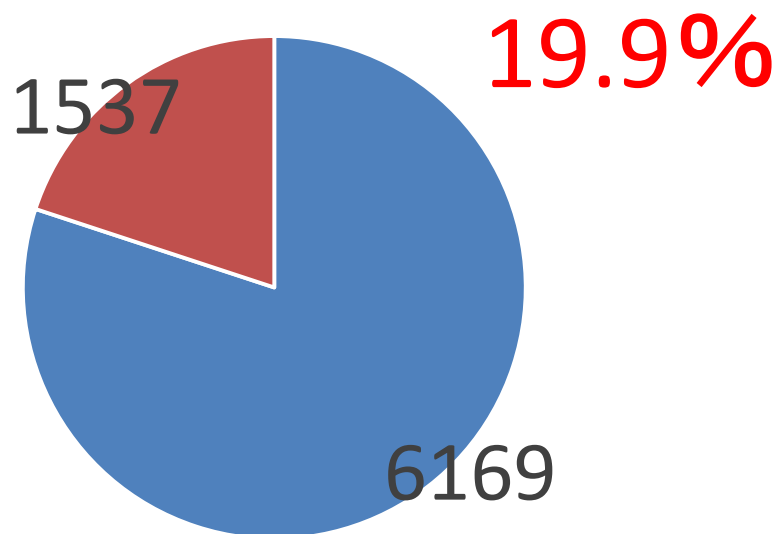


平成24年「医師・歯科医師・薬剤師調査」

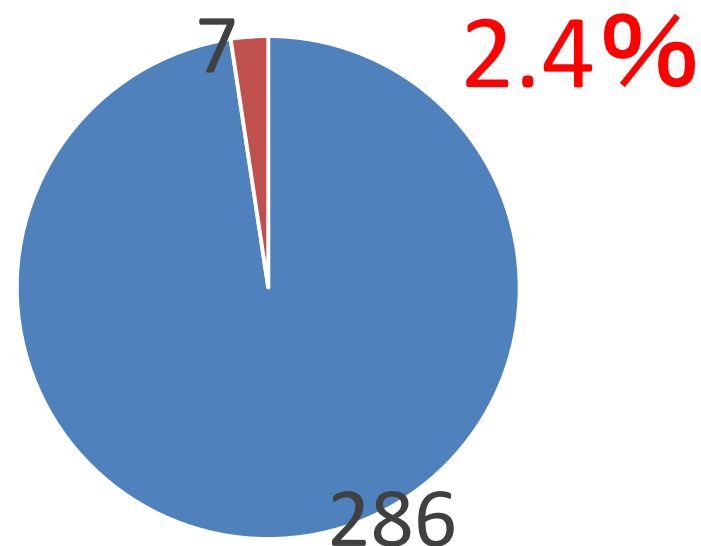


頭頸部外科分野の現状

耳鼻咽喉科専門医



頭頸部外科専門医



女性医師を頭頸部外科に取り込むことが頭頸部外科医を増やすことにつながるのでは？

2016年9月現在



自己紹介

- 2001年(24歳) 医師免許取得
- 2006年(29歳) 大学病院医員
- 2006年(29歳) 耳鼻咽喉科医専門医取得
- 2007～2010年(30～33歳) 社会人大学院生
→学位取得
- 2011年(34歳) 助教
双子出産
(産前2か月産後2か月産休)
- 2012年(35歳) 頭頸部外科暫定指導医取得
- 2014年(37歳) 頭頸部外科専門医取得



NAGOYA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL
OF MEDICINE

なぜ頭頸部？

学生時代 「糖尿病内分泌内科」

初期研修医時代 「オペが楽しい」

耳鼻咽喉科を選んだ理由 「感覚器の魅力」

頭頸部を始めた11年前

「頭頸部の面白さ」

「オペ技術を習得したい」



産後2か月でフルタイム復帰

当直免除

待機(ほぼ)免除

時間外労働の短縮

(月曜日21時頃、火曜日～金曜日18時まで)



他のスタッフの負担増

思うように働けないイライラ

疎外感

申し訳ない気持ち

女性優遇
逆差別
不公平感

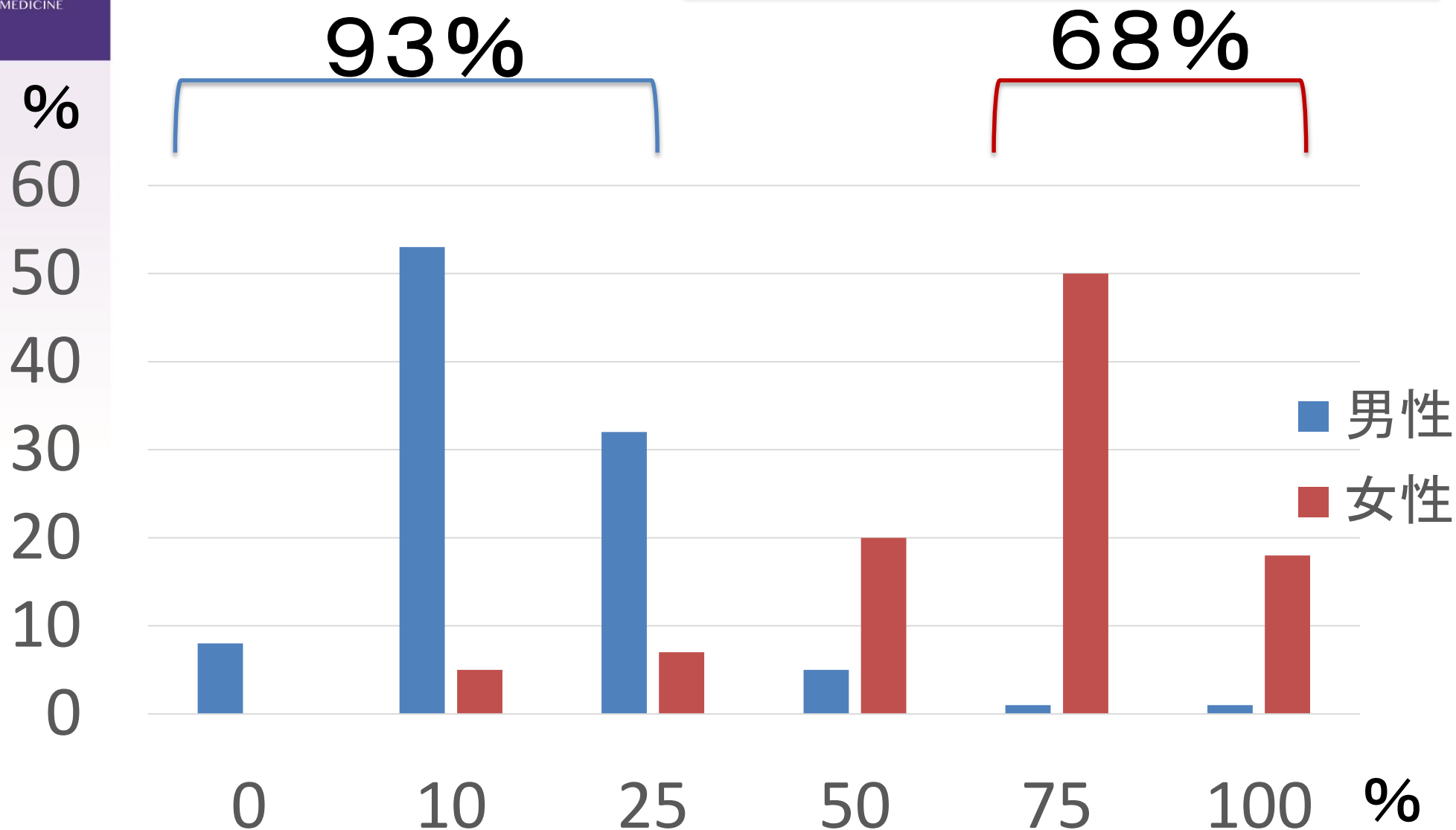


働きにくい
不安 不満



育児の負担

家庭での育児量を100%として
自分が行っている育児量



平成27年度「名大・名大ネットワーク研修病院医師アンケート」より
小学校6年生までの子を持つ男女955人



ライフイベントを抱える医師への包括的支援

育児
家族の介護
自身の病気
体力低下

本人の努力
モチベーション
維持

職場環境
整備

公的サービス
支援

キャリア
形成・継続



働きやすい職場環境

★診療体制

複数主治医制、チーム制、当番制

★カンファレンス・勉強会の時間内開催

★職場の雰囲気

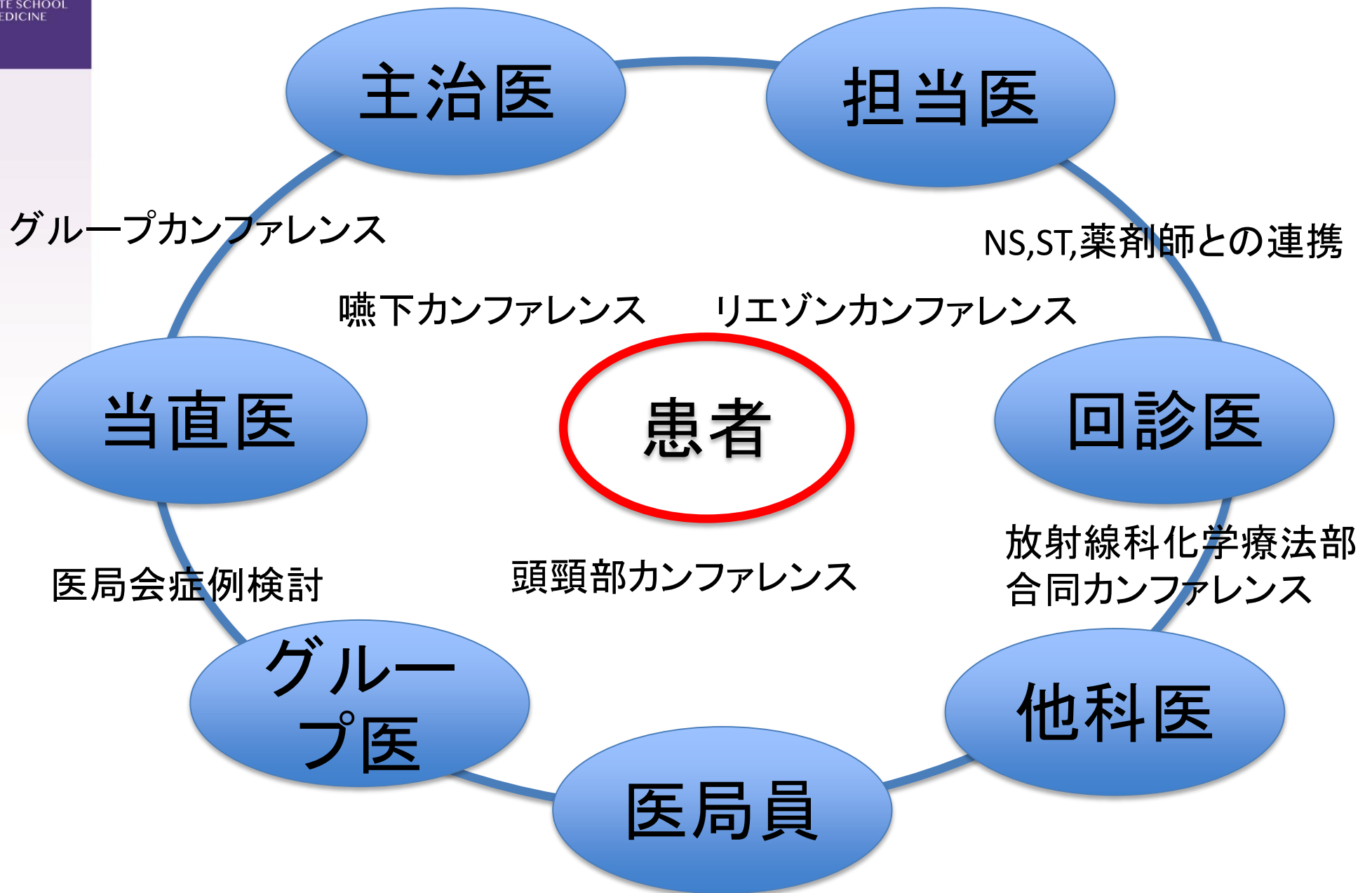
トップの意識

コミュニケーション

心身のゆとり



複数主治医担当医制(名大腫瘍グループ)





NAGOYA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL
OF MEDICINE

一番やりたいこと＝手術

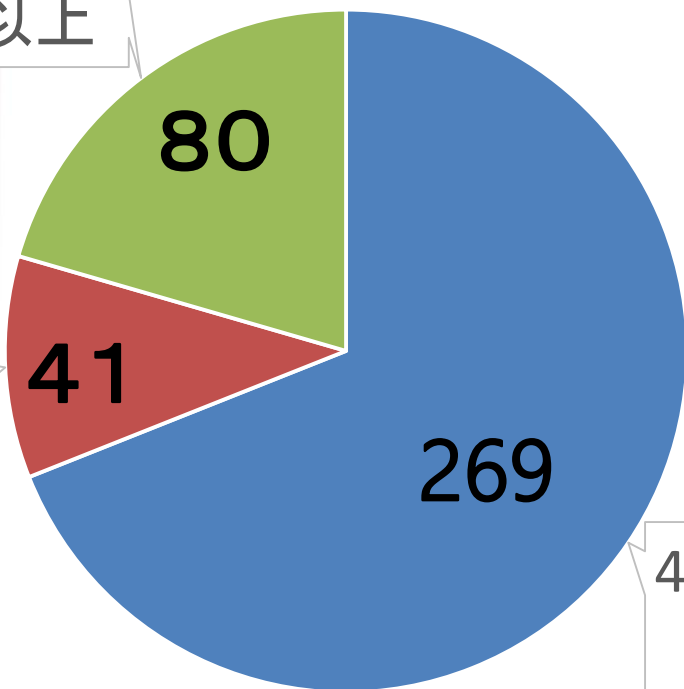


出産前後の手術経験(予定手術時間別)

※入室～退室まで総所要予定時間

産前4年

9時間
以上



9時間
以内

4時間以
内

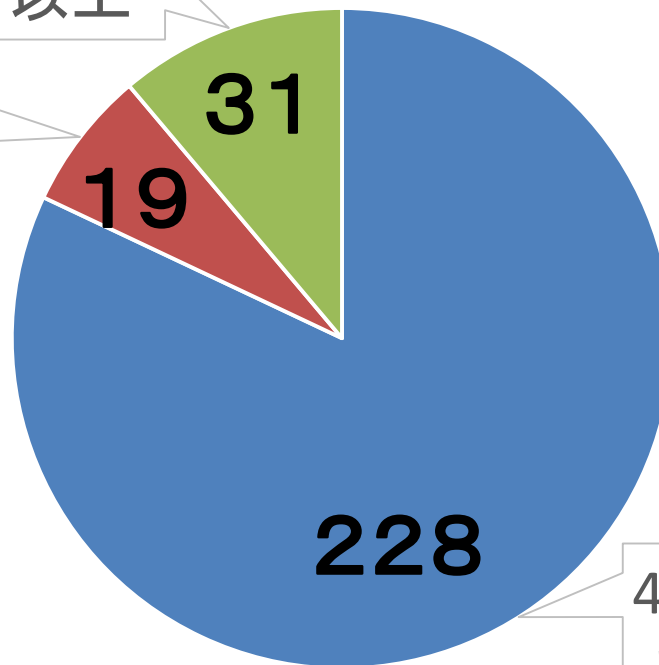
手術総件数

390件

産後4年

9時間
以上

9時間
以内



4時間以
内

278件



予定時間4時間以内の手術

- ・頸部郭清術
- ・甲状腺手術
- ・頸部良性腫瘍手術
- ・音声手術
- ・嚥下手術
など



指導的立場
悪性腫瘍以外
の手術



手術室には女性が多い

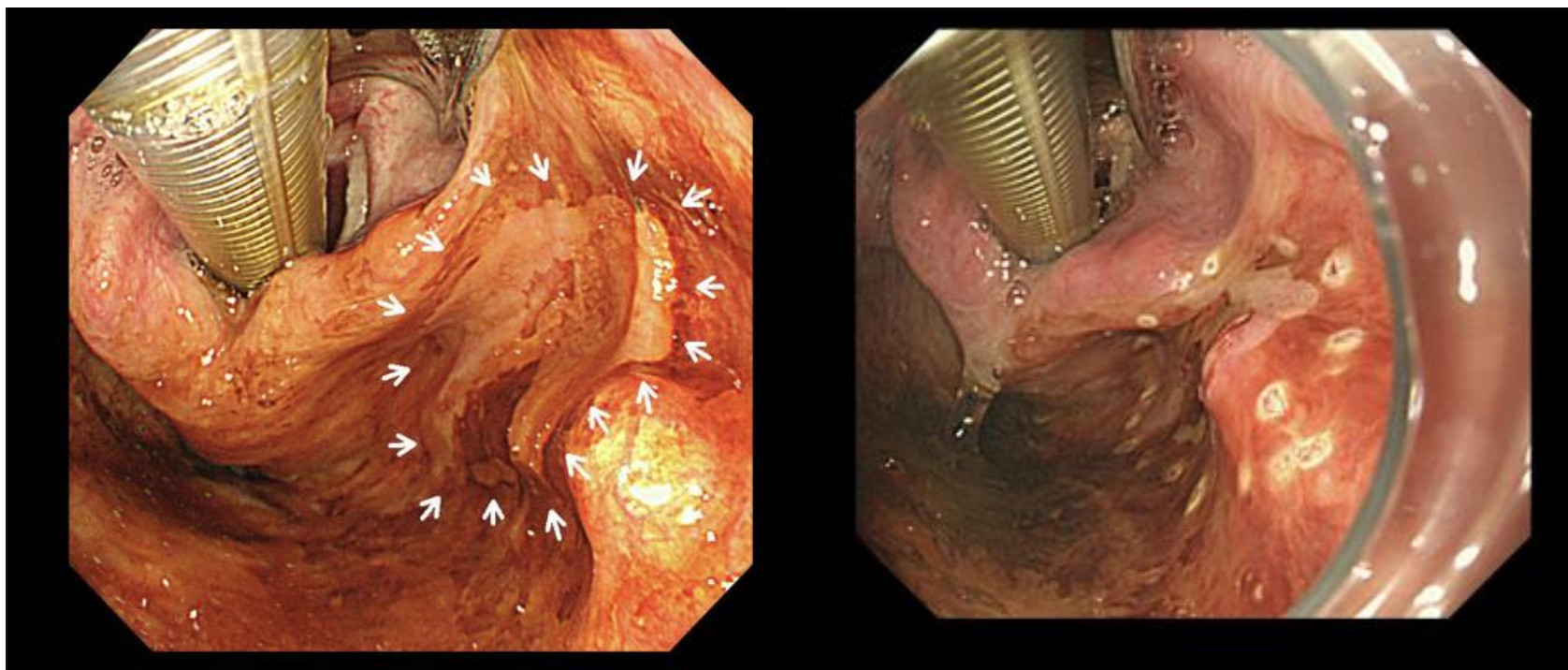


NAGOYA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL
OF MEDICINE

予定時間4時間以内の手術

TOVS・ELPS

産前45件→産後63件





NAGOYA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL
OF MEDICINE

ロールモデル

後期研修中に出会った先輩女性医師
~~「出産したら仕事は続けられない」~~



研究会を通じて出会った古川まどか先生
「女性の頭頸部外科医との出会い」



院内ワーキングを介して出会った他科女性ドクター
「情報共有」・「私だけじゃない」

後輩たちのロールモデルに
「先輩としての使命」





周りの支援

制度もあるし、支援も必要だが・・・

支援 **≠** あたりまえ

支援する立場、支援される立場双方の立場から考える

上司、同僚、後輩に支えられて
今日の私があると思っております



名古屋大学耳鼻咽喉科学教室
の
スタッフに感謝いたします